



University of Washington 短期語学研修報告書

北海道教育大学岩見沢校
芸術スポーツビジネス専攻 1年 千代都葵

① プログラムで受講した授業に対する印象、コメント

私は以前より異文化や言葉に興味があり、これらを使用したコミュニケーションによりいろんな情報を得たいと思っていました。英語とはいわばそのためのツールなのです。今回はその一番のキーポイントとなる英語を学習・経験するためのプログラムであると考えられました。比較的英語が得意ではない方々にもいい経験ができるプログラムだと思います。

私の印象としてはほぼ9割の参加者が日本人で、困った時には近くに友達がいるといった環境でした。利点としては英語が苦手な同じ出身国の仲間が近くにいる安心感があり、さほどストレスを感じないことだと思いますし、好きな時に日本語でコミュニケーションをとることができます。しかし、今回一緒に参加した方とも話していましたが、それでは英語の能力は向上しません。英語のコミュニケーション能力の向上を求めている人は自分から行動し、進んで現地のネイティブスピーカーだけではなく日本人の仲間とも英語を普段から積極的に使ってこの研修に望めば期待以上の成果を得られるのではないかと感じました。

また、このプログラム内にはワシントン大学が独自に開催している任意参加のフィールドトリップ（学校内探検やシアトルの観光名所めぐり等）があり、アメリカの歴史、名所、観光スポット、名物などを学ぶことができました。



↑メキシカンレストランでの壁画。



↑ワシントン大学の校門にある大きな銅像
誰なのかは実際に見ないとわかりません。

② ワシントン大学での生活体験、シアトルの都市の様子

ワシントン大学は本当に大きいです。大学敷地内にある教室と教室の間は約20分位歩かなくてはならない場合もありました。しかし、その教室は新しく明るい印象の教室や古く歴史を感じる教室もあります。大学は観光地にもなっているようで、一般

の方も食堂や図書館を利用でき、異文化の体験もすることができました。シアトルは西海岸の海沿いに位置していることもあり、シーフードのレストランもよく目につきます。日本ではなかなか食べられない海産物も食べることができるかもしれません。

私がシアトルに渡ったときに右も左もわからず、どうしていいかわからなかったのですが、自分から赤の他人に話しかけて聞くということが一番大事だと思いました。シアトルに住む人たちは本当に気さくな人たちで話しかけると気軽に笑顔で答えてくれます。



↑ホームステイでお世話になったホストマザー。

食べ物に関してはおいしいものばかりでした。だからこそほどほどに。サイズに関してはお店によって違います。ちょうどいいサイズのものもありますし、少し大きめのサイズで出てきてしまうケースも多いです。大きめのサイズで食べきれなくなった場合は「ドギーバッグ」を利用しましょう。これは直接ホストファミリーに聞いたほうがおもしろいです。



←シアトルで有名な美味しいチョコレートブランド。



↑スターバックスコーヒーの1号店もシアトルにあります。



←シアトルは雨が多いので傘の専門店もありました。